

フィブリノゲン製剤は、産科の疾患その他で出血が多かった方や、大きな手術をされた方に使われた可能性があります。フィブリノゲン製剤が使用された疾患については、

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0105/h0518-2a.html#betul>

をご参照ください。

詳 Q12：C型肝炎ウイルス抗体が陽性であることが分かったら、どうすればいいですか？

C型肝炎に詳しい医師による精密検査が必要です。必要があれば、C型肝炎ウイルス核酸検査を受け、「現在ウイルスに感染している」のか、「過去にウイルスに感染したことがある（＝感染既往）」かを判別します。同時に血液中の肝酵素：ALTを測定します。肝臓に炎症があると、ALT値が上昇します。検査の結果、慢性肝炎と診断された場合には、特に治療が必要になります。

詳 Q13：C型肝炎ウイルスに感染していても肝機能検査が正常の場合がありますか？

あります。C型肝炎患者の肝酵素（ALT、AST）値は変動しますから、ある時は正常値、別のある時は異常高値という場合があります。慢性肝疾患があっても1年以上肝酵素値が正常の方もいます。肝酵素値が正常範囲内であれば、3～4ヶ月ごとに肝酵素値を再検査するとよいでしょう。肝酵素値が正常範囲を維持するようであれば、6～12ヶ月に1回程度の検査で十分となるかもしれません。肝機能検査が正常な場合の検査の間隔等は、主治医の指示に従って下さい。

C型肝炎ウイルスはどのようにして感染するか？

詳 Q14：C型肝炎ウイルスはどのようにして人から人へ感染しますか？

C型肝炎ウイルスは主に感染している人の血液に触れることによって直接感染します。例えば、今後、以下のようなことがあった場合に新たに感染する危険性があります。

- 注射器を用いて覚せい剤、麻薬等を使用した場合
- C型肝炎ウイルス陽性者が使った注射器・注射針を適切な消毒などをしないで注射を受けた場合
- C型肝炎ウイルス陽性者からの輸血、臓器移植等を受けた場合

また、以下の場合にも感染する可能性があります。

- 血液透析を受けている場合

- 頻繁に血液に触れる（特に針刺し事故など）保健医療従事者の場合
- C型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子供の場合（ただし、少ない）
- C型肝炎ウイルスに感染している人と性交渉があった場合（ただし、まれ）
- C型肝炎ウイルス陽性者の血液の付着したカミソリや歯ブラシを共用した場合
（「詳 Q11」参照）

詳 Q15：C型肝炎ウイルスは医療行為（歯科医療含む。）で感染しますか？

現在、日本で行われている医療行為（歯科医療含む）でC型肝炎ウイルスに感染する可能性はまれと考えられています。しかし、血液透析を受けている方は、施設内での感染が発生しており、医療機関における感染予防が重要な問題となっています。

詳 Q16：C型肝炎ウイルスは性行為で感染しますか？

性行為で感染する可能性はまれとされていますが、他の性行為感染症の予防にも効果があるコンドームの使用をお勧めします。

詳 Q17：C型肝炎ウイルスは家庭内で感染しますか？

家庭内での感染可能性はまれといわれています。もし家庭内で感染が起これば、それは感染者の血液に直接接触したような時だけですから、歯ブラシやカミソリなどを共用するのはやめましょう。

詳 Q18：C型肝炎ウイルスは輸血（血液製剤も含む。）で感染しますか？

C型肝炎ウイルスが発見され初期の検査法が導入される平成元年（1989年）までは、輸血された方の8.7%に非A非B型肝炎が発生していました。この肝炎のほとんどがC型肝炎であったと考えられています。初期の検査法が用いられた平成2～3年（1990～1991年）には0.5%、改良された検査法が用いられた平成4～11年（1992～1999年）には0.1%以下となっています。平成11年（1999年）からは更に新しい検査法（核酸増幅検査：NAT）を導入したため、安全性は更に向上しています。

平成4年（1992年）以前に輸血（や臓器移植手術）を受けたことがある方は、当時はC型肝炎に感染している血液か否かを高感度で検査する方法がなかったことから、C型肝炎に感染している可能性が高くなっています。

また、フィブリノゲン製剤の投与を受けた方（フィブリン糊としての使

用を含む。) 、又は昭和 63 年 (1988 年) 以前に血液凝固第Ⅷ、第Ⅸ因子製剤の投与を受けた方は、これらの製剤の原料 (血液) の検査、C型肝炎ウイルスの不活化が十分になされていないものがありましたので、C型肝炎に感染している可能性があります。

上記に該当する方は、主治医に相談の上、C型肝炎の検査を受けることをお勧めします。

フィブリノゲン製剤は、産科の疾患その他で出血が多かった方や、大きな手術をされた方に使われた可能性があります。フィブリノゲン製剤が使用された可能性がある疾患については、

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/0105/h0518-2a.html#betu1>
をご参照ください。

詳 Q19 : 献血血液の安全性向上のためにどのような予防対策が取られていますか？

現在、献血時の問診、献血された血液のC型肝炎ウイルス抗体検査及びC型肝炎ウイルス RNA 検査 (抗体検査陰性の場合) を行っており、感染した血液が使用されることのないように最善を尽くしていますが、それでも、感染後、ごく早期 (ウィンドウピリオド) の検体については見逃してしまうことがあります。今後、更に有効な検査法の開発が期待されます。

血液センターでは、医療に必要な血液の安全性を高めるために、献血血液すべてについていろいろなウイルス等の感染予防のために厳しい検査を行っています。しかし、ウィンドウピリオドでは検査でウイルスが見つからないため、その血液が輸血医療に使用され、患者さんにとって重大な結果を招いてしまう恐れがあります。こうした理由により、C型肝炎ウイルスやB型肝炎ウイルス、人免疫不全ウイルス等の検査目的での献血は絶対に避けてください。

妊娠と授乳

詳 Q20 : 妊婦はC型肝炎ウイルス抗体を検査しなければいけませんか？

妊娠しているからといって、C型肝炎ウイルスに感染する危険が増えるわけではありません。もし妊婦でC型肝炎の危険因子を持っているようなら、一般の方と同様にC型肝炎ウイルス検査をお勧めします。

詳 Q21 : C型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子供への感染のリスクはどのくらいですか？

C型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子供 100 人のうち、およそ 2 人から 10 人が感染しているとされています。この感染は出産のと

きに起こり、今のところ、予防法も治療法もありません。感染を受けた子供の多くは、無症状です。この子供に何らかの問題が生じるかどうかは、今後のいろいろな研究結果を待たねば分かりません。現在、C型肝炎ウイルスに感染した子供に対する治療法について標準的な治療法は確立されていません。ALT 値が上昇した子供は、C型肝炎ウイルス関連疾患の子供の治療に詳しい専門家の精密検査を受診することをお勧めします。

詳 Q22 : C型肝炎ウイルスに感染している母親からの授乳には注意が必要ですか？

授乳でC型肝炎ウイルスが感染したとの報告はありません。ただし、C型肝炎ウイルス陽性の母親で乳首に傷があったり、出血している場合は、感染する可能性があるため、傷などが治るまで授乳を控えてください。

詳 Q23 : C型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子供には検査が必要ですか？

C型肝炎ウイルスに感染している母親から生まれた子供には、母親の胎盤を通して移行するC型肝炎ウイルス抗体が12ヶ月ぐらいは残存していますので、生後12ヶ月まではC型肝炎ウイルス抗体検査を行っても判断ができません。もし生後12ヶ月より前に結果を知りたい場合は、生後3~6ヶ月経ってからC型肝炎ウイルスRNA検査を行ってください。

予防

詳 Q24 : C型肝炎ウイルスに感染している人が他人へのC型肝炎ウイルス感染を予防するにはどうすればいいですか？

感染している方は、

- 献血をしない、臓器や組織を提供しない、精液を提供しない
- 歯ブラシ、カミソリなど血液が付着するようなものを他の人と共用しない
- C型肝炎ウイルスが感染しないように、皮膚の傷を覆う
- 月経血、鼻血などは自分で始末する

などを注意すれば、他人に感染させることはありません。

詳 Q25 : 一般に血液からの感染を予防するにはどうすればいいですか？

まだ、感染予防のためのワクチンは出来ていません。しかし、C型肝炎ウイルスは感染力が非常に弱く感染予防は可能です。要は、感染している人の血液になるべく触れないことです。具体的には、以下のようなことに気をつけてください。常識的な社会生活を心がければ、感染することはな

いと考えられています。

- 歯ブラシ、カミソリなど血液が付いている可能性のあるものを共用しない。
- 他の人の血液に触るときは、ゴム手袋を着ける。
- 注射器や注射針を共用して、非合法の薬物（覚せい剤、麻薬等）の注射をしない
- 入れ墨やピアスをするときは、清潔な器具であることを必ず確かめる。
- よく知らない相手との性行為にはコンドームを使用する。

また、以上の行為の中には、そもそも違法なものが含まれています。感染する危険性が極めて高いことは言うまでもありませんが、行わないようにすることが基本です。

なお、現在、献血された血液はC型肝炎ウイルスのチェックが行われており、ウイルスが含まれる場合は使用されていません。

C型肝炎ウイルスに感染している、あるいは感染の疑いのある場合、C型肝炎ウイルスの検査の目的での献血は決して行わないようご協力をお願いします。

詳 Q26 : C型肝炎ウイルスに感染している人は性行為で何に気をつければいいですか？

性行為によるC型肝炎ウイルス感染の確率はまれとされていますが、パートナーへ感染させる確率を更に下げるためには、予防としてコンドームを使用するのが一番です。また、パートナーもC型肝炎ウイルスの検査を行うことをお勧めします。

詳 Q27 : C型肝炎ウイルスに感染している人は何に気をつけて生活すればいいですか？

- 飲酒を控える。
- 定期的に医療機関を受診する。
- かかりつけ医師が処方した薬を勝手に止めたり、かかりつけ医に無断で薬（病院、薬局、民間療法含む）を服用したりしない
等が大切です。

なお、C型肝炎ウイルスはくしゃみ、せき、抱擁、食べ物、飲み物、食器やコップの共用、日常の接触では感染しません。また、C型肝炎ウイルス感染者だからといって、職場や学校などで差別を受けるような理由はありません。

<参考>

ウイルス性肝炎の感染者や患者の団体があり、電話相談等も受け付けています。

日本肝臓病患者団体協議会

〒116-0033 東京都新宿区下落合 3-6-21-201 号

TEL : 03-5982-2150 (月～金 10:00～16:30)

FAX : 03-5982-2151

URL : <http://www.nipponroche.co.jp/tokyokanzou/>

E-mail : tokyokanzou@ma4.justnet.ne.jp

全国肝臓病患者連合会、東京肝炎の会

〒156-0043 東京都世田谷区松原 1-12-3-102 号

TEL : 03-3323-2260 (月、水、金 13:00～17:00)

FAX : 03-3323-2287

URL : <http://www.geocities.co.jp/Colosseum-Acropolis/9112/>

E-mail : zenkanren@geocities.co.jp

詳 Q28 : C型肝炎ウイルスに感染している人はA型やB型肝炎の予防接種を受けた方がいいですか？

C型肝炎にA型肝炎やB型肝炎を合併すると、更に肝臓に対する負担が大きくなる可能性があります。また、C型肝炎ウイルスに感染する可能性の高い人は、B型肝炎ウイルスについても感染の可能性が高いと考えられています。C型肝炎ウイルスに感染している人はA型、B型肝炎のワクチン接種をお勧めします。

C型肝炎ウイルス感染の長期予後

詳 Q29 : C型肝炎ウイルスに感染している人が、慢性肝炎、肝硬変、肝がんになる、あるいは死亡するのはどれくらいの割合ですか？

C型肝炎ウイルスに感染すると多くの人が持続感染の状態となるが、その後、慢性肝炎となる人も多く、さらに一部の人は肝硬変、肝がんへと進行すると言われています。この経過を示すのに以下のようなデータがあります。

C型肝炎ウイルスに感染している 40 歳以上の 100 人を選び出すと、選び出した時点で、65～70 人が慢性肝炎と言われています。

また、無症候性のC型肝炎ウイルス感染者 100 人を選びだし、20～30 年間、適切な治療を行われなかった場合

10～16 人が肝硬変に

20～25 人が肝がんに行進します。

しかし、適切な治療を行うことで病気の進展をとめたり、遅くすることができますので、C型肝炎ウイルスに感染していることが分かった人は、必ず医療機関を受診して病気の状態等の診断を受けて下さい。

詳 Q30 : C型肝炎で肝臓以外に症状がでますか？

C型肝炎ウイルス感染者の一部で肝臓以外に症状が出る場合があります。これらの症状は身体の自然な免疫機構が自己に対して働いて起きるものです。

C型肝炎の管理と治療

詳 Q31 : C型肝炎ウイルスに感染している人の治療には専門医への相談が必要ですか？

C型肝炎ウイルスに感染している人で肝酵素（ALT、AST等）値が上昇している場合、更なる精密検査、治療法選択の相談等のために専門医を受診することが必要です。C型肝炎ウイルスに感染している人の治療を行う際には、C型肝炎治療に関する最新の知識、経験によることが望ましいからです。

詳 Q32 : C型肝炎はどのように治療しますか？

C型肝炎の患者の治療は、病気の進行の状態によって方法や効果などが違います。インターフェロンや、リバビリンという抗ウイルス剤を用いる場合、これらの薬による効果は、ウイルスの遺伝子型や量によって差があり、副作用の問題もあります。そこで、治療薬や治療方針の選択については専門の医師による判断が必要です。インターフェロンについては、効果があった場合には、繰り返し治療を行うことも認められています。ただし、インターフェロンによりC型肝炎ウイルスの排除（治癒）に成功するのは、全体では100人中約30人、リバビリンを併用した場合でも、それをやや上回る程度と考えられます。

インターフェロンやリバビリンでウイルスを排除できなかった場合でも、肝酵素（ALT、AST等）値が正常範囲を超えて上昇している場合には肝臓を庇護（ひご）する治療を行い、肝臓の細胞が損傷されることを抑えることで、肝硬変や肝がんになることを予防したり、遅らせたりする治療が行われます。

詳 Q33 : 治療費用はいくら位かかりますか？

一般的に治療等に必要な医療費は医療保険が適用されますが、自己負担

額が高額になった場合は、高額療養費制度の対象となり、一定の基準額を超える部分が保険から給付されます。この基準額（1ヶ月当たりの自己負担限度額）は、一般的には63,600円（所得の高い方は121,800円）に一定の限度額を超えた医療費の1%を加えた額となります。ただし、低所得者の場合は35,400円となります。

実際に給付を受けられるかどうか、受けられる場合その額はいくらか、どのような申請を行えばよいか等については、加入されている医療保険の保険者（例えば、政府管掌健康保険であれば社会保険事務所、組合管掌健康保険であれば健康保険組合、また国民健康保険であれば市町村等）や医療機関の窓口等にお訊ね下さい。

詳 Q34：インターフェロン療法は効果がありますか？

インターフェロン単独での有効率（ウイルスが完全に排除される率）は平均すると約30%ですが、抗ウイルス剤であるリバビリンという薬と併用することによりやや有効率が増すことが示されています。

詳 Q35：インターフェロン療法及びインターフェロンとリバビリンの併用療法の副作用にはどのようなものがありますか？

インターフェロン療法を行っている多くの患者さんにはインフルエンザ様の症状（発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛、全身けん怠感、食欲不振等）が治療開始後早期にみられます。

しかし、これらの副作用は治療を続けていくと軽くなっていきます。

インターフェロン投与中には時に様々な副作用が見られますので、主治医とよく相談しながら治療を行いましょう。特に注意すべき副作用は、1~2%にみられる「うつ状態」及びそれに伴う「自殺企図」です。これは、不眠や不安感等から始まります。

また、間質性肺炎や白血球減少などにも注意が必要です。

なお、妊婦へのインターフェロンによる治療は、十分な安全性が確認され

ていないので普通は行いません。

リバビリンを併用した場合の、注意すべき副作用として、貧血や肝機能障害が挙げられます。また、催奇形性があるので、妊婦に投与することはできませんし、男性への投与に関しても、パートナーの方の妊娠等の状況によって制限があります。

インターフェロン及びリバビリンによる治療は、投与中の副作用等の問題もありますので、主治医とよく相談して行うことが重要です。また、これらのことに詳しい専門医、あるいはその協力の下に行うことが望ましいといえます。

詳 Q36 : インターフェロンによる症状や副作用を軽減する方法にはどのようなものがありますか？

まず、どういう副作用が出たか、担当医に話しましょう。副作用の一部はインターフェロンを夜に投与したり、減量したりすることによって、減らすことが出来ます。また、インフルエンザ様の症状は、鎮痛解熱薬を投与することによって軽減できます。

詳 Q37 : インターフェロンおよびリバビリンを使用した治療は子供にも行えますか？

インターフェロン、リバビリンの子供等への使用については、使用経験が少なく安全性が確認されていないので通常はおこないません。

また、子供の場合は病気の進行が遅く、直ちに治療を行う必要性は低いという意見もあります。主治医とよく相談して下さい。

遺伝子型

詳 Q38 : ウイルスの遺伝子型とは何ですか？

遺伝子型とは微生物やウイルスの遺伝子構成の違いを表しています。C型肝炎ウイルスには大きく分けると6つの遺伝子型が確認されています。

詳 Q39 : C型肝炎に感染している人の治療にはウイルスの遺伝子型を調べる必要がありますか？

あります。これはウイルスの遺伝子型とインターフェロンの治療効果に関係があるためです。

日本では、遺伝子型 1b (Ⅱ) が約 70%、2a (Ⅲ) が約 20%、2b (Ⅳ) が約 10%にみられますが、インターフェロンで治療を行うと 1b では 20%弱の人が、2a では約 60%以上の人で、2b では約 40%以上の人でC型肝炎ウイルスが排除されて肝臓病が改善するというデータがあります。

以上のように、C型肝炎ウイルスの遺伝子型の検査は臨床的に有用です。なお、遺伝子型は一度確認すれば、再度検査する必要はありません。感染が続く間、別の遺伝子型のウイルスに感染しない限り遺伝子型が変わることはありません。

詳 Q40 : なぜ多くの人で感染が持続するのでしょうか？

一般的には、ウイルスに対する免疫機能が働いてウイルスの増殖を抑えたり、排除したりすることができるのですが、C型肝炎ウイルスの場合はウイルスが感染中に変異してしまう率が高いこともあって、ウイルスを排除するのに十分な免疫機能が働かないと考えられています。しかし、詳し

いメカニズムはまだ十分に解明されていません。また、感染を予防するための有効な薬（例えば、免疫グロブリンやワクチン）も現在のところはありません。

詳 Q41：違う遺伝子型のC型肝炎ウイルスに感染しますか？

感染します。ある遺伝子型のウイルスの感染により抗体ができて、違う遺伝子型のウイルスによる感染を防御することはできません。

C型肝炎と保健医療従事者

詳 Q42：針刺し事故によるC型肝炎ウイルス感染のリスクはどのくらいですか？

C型肝炎ウイルス陽性血液に汚染された針刺し事故等の後、約1.8%前後の保健医療従事者がC型肝炎ウイルスに感染しています。（幅0%~10%）

詳 Q43：C型肝炎ウイルス陽性の血液に触れた保健医療従事者はどのように経過観察すればよいですか？

C型肝炎ウイルスを含む血液に触れた人は、まず、その血液にC型肝炎ウイルスが入っているかどうかを検査します。

更に、以下の様な検査を行いつつ約6ヶ月間経過をみます。

- 接触直後のC型肝炎ウイルス抗体検査、ALT検査
- 一定の間隔ごとのC型肝炎ウイルスRNA定性検査、ALT検査。

なお、感染予防薬として有効なものはありません。

詳 Q44：C型肝炎ウイルスに感染した保健医療従事者は仕事上の制限を受けますか？

受けません。C型肝炎ウイルスに感染した保健医療従事者を制限するようなものではありません。感染を受けた保健医療従事者から患者へ感染するリスクはまれです。すべての保健医療従事者と同じように、C型肝炎ウイルス感染保健医療従事者も厳格な無菌操作と、手洗いを行うなど、基本的な予防措置に心がけ、注射針など鋭い器具による外傷を負わないように気をつける必要があります。

C型肝炎の検査について

Q45. C型肝炎の検査を受ける方法には、具体的にどのようなものがあるのですか？

C型肝炎の診断のための血液検査はほとんどの医療機関で行うことがで

きますが、特に肝炎が疑われる全身倦怠感や食欲不振、悪気・嘔吐あるいは黄疸といった症状がある場合には、早めに受診されることをお勧めします。なお、一般的には医療保険が適用となりますが、症状が全くない場合などは自由診療となることもあります。詳細については、検査を希望される医療機関にお問い合わせください。

また、平成13年3月に提出された「肝炎対策に関する有識者会議」報告書において、現行の健康診断等の仕組みを活用したスクリーニング検査の検討の必要性が指摘され、これを受けて厚生労働省では「C型肝炎等緊急総合対策」の一環として、平成14年4月より、以下の3通りの方法でC型肝炎ウイルス検査を実施することになります。

- ①老人保健法による肝炎ウイルス検査
- ②政府管掌健康保健等による肝炎ウイルス検査
- ③保健所等における肝炎ウイルス検査

なお、上記以外にもC型肝炎の検査を行っている場合がありますので、いつも受けている健康診断等の問合せの窓口等にご相談ください。

Q46. 「老人保健法による肝炎ウイルス検査」について具体的に教えてください。

老人保健法による基本健康診査（住民検診）を受けることのできる方が対象となります。

肝炎ウイルス検査は、健康診査の対象者のうち、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の節目の年齢に該当する方と、それ以外の年齢の方で過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、及び、基本健康診査でGPT値により要指導と判定された方が対象です。

検査は、対象となった方の希望によりおこないます。

なお、実施方法等の詳細につきましては、お住まいの市町村の老人保健事業担当課までお問い合わせください。

Q47. 「政府管掌健康保健等による肝炎ウイルス検査」について具体的に教えてください。

政府管掌健康保険による生活習慣病予防健診を受けることのできる方が対象となります。

肝炎ウイルス検査は、生活習慣病予防健診の対象者のうち、35歳、40歳、以降5歳間隔の節目の年齢に該当する方と、それ以外の年齢の方で過去に肝機能異常を指摘されたことがある方、及び、生活習慣病予防健診でGPT値が一定値を超えた方が対象です。

検査は、対象となった方の希望によりおこないます。

なお、船員保険の生活習慣病予防健診を受ける方も、肝炎検査がうけられます。

実施方法等の詳細につきましては、お勤めの会社住所地を管轄する社会保険事務局まで お問い合わせください。

Q48. 「保健所等における肝炎ウイルス検査」について具体的に教えてください。

現在、保健所等にて、性感染症に対する特定感染症予防事業として、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジローム、梅毒、淋菌感染症の5疾患の検査、及び、HIV についての相談・検査が実施されています。これらとあわせて、40歳以上の希望者に対して、HBs抗原検査、HCV 抗体検査を実施するための補助をする制度を構築しますので、実施方法等の詳細につきましては、お住まいの地域を管轄する保健所にお問い合わせ下さい。

<参考文献>

1. 非A非B型肝炎の予防、疫学に関する研究報告書（吉澤ら、厚生科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業、2000年4月）
2. 非A非B型肝炎の臨床的総合研究報告書（飯野ら、厚生科学研究費補助金新興・再興感染症研究事業、2000年4月）
3. 慢性肝炎診療のためのガイドライン（社団法人日本肝臓学会、2000年）
4. ウイルス肝炎（吉澤・飯野共著、1998年2月）
5. HCV抗体の知識（財団法人ウイルス肝炎研究財団、1998年6月）
6. Consensus Statements on the Prevention and Management of Hepatitis B and Hepatitis C in the Asia-Pacific Region (Journal of Gastroenterology and Hepatology, Volume 15 Number 8 August 2000)
7. Recommendation for Prevention and Control of Hepatitis C virus (HCV) Infection and HCV-Related Chronic Disease (Centers for Disease Control and Prevention, October 1998)
8. Hepatitis C, question & answer manual (Canadian Liver Foundation, April 2000)

厚生労働省健康局結核感染症課

〒100-8916 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2

電話：03-5253-1111

URL：<http://www.mhlw.go.jp/>

財団法人ウイルス肝炎研究財団

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-2-15 新興ビル7F

電話：03-3813-4077

URL：<http://www.vhfj.or.jp/>

社団法人日本医師会感染症危機管理対策室

〒113-8621 東京都文京区本駒込 2-28-16

電話：03-3946-2121

URL：<http://www.med.or.jp/>